

令和 8 年度 第 1 回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：令和 8 年 7 月 8 日(水) 14:00～15:30

場 所：かが交流プラザさくら 201 会議室

出席委員：新澤委員、橋本委員、光谷委員、下中委員、山村委員、米山委員、北井委員、
中田委員、山下委員、平田委員、下荒委員、辻委員、後出委員、佐藤委員

欠席委員：中川委員

※委員 15 名中 14 名の出席により健康福祉審議会の規定数である過半数を
満たしているため会議は成立した。

次第

1 開会

2 あいさつ 北口健康福祉部長

3 委員の紹介

委員交代 加賀市区長会連合会 山下委員
加賀市老人クラブ連合会 平田委員

4 議題

(1)令和 7 年度の事業の実績および令和 8 年度の主な取組について

①健康増進事業について 資料 1 参照

質疑応答

山村委員：特定健診の受診率について。これまでの加賀市の取り組みについては高く評価しているが、それでも受診率が上がっていない。健康づくり推進員として受診勧奨している中で感じたことだが、国民健康保険加入者は自営業の方が多いことから、予約が必要な医療機関で健診を受けることは難しいのではないかと、集団健診でも日程が合わないとなかなかいけないという人が多くて、受診率が低いのではないかと考えている。

加賀市とほぼ人口が同じ野々市市では結構受診率が高いが、加賀市と野々市市との差は何か、把握しているか。

事務局：これといった答えは持ち合わせていないが、周知の方法や、40 代 50 代の方への働きかけがあるのかもしれない。受診率向上対策としてこういったことをしているのかについて、他の自治体も含めて、今後、情報収集していきたい。

北井会長：自営業の方が健診に行こうとするとお店を休まなければならない、その分の売り上げが下がることが懸念されるため、そういった住民の動向が受診率の低い理由かもしれないが、例えば、自治会の総会に併せて健診も行うといった、人が集まる機会に健診を行うようなことを考えてはどうか。来年度に向けて検討してはどうか。

新澤委員：健診率の高い市町のやり方を聞いてみてほしいと思う。

地区別の受診率については、受診率が上がった時には何か表彰制度があるのか。自分たちはこういった形で示されるため、どこの地区が高いかというような情報はわかるが、市民向けには表彰を通じて啓蒙していったらどうか。

保健指導について。保健指導を受ける率はどれくらいか。医療機関は病気にならないと行きにくい、具体的な病気になる前に、保健指導対象者としてちょっと引っかかった時に医療機関へ行き、様々なスタッフに接することができるよう、医療機関との連携を加賀市全体として作ってもらえるとよいと思う。

歯周病健診については、若い人から対象になってきてよかったと思う。歯に関しても、う歯についても気になるが、歯周病検診の際、う歯のチェックもしているのか。

事務局：地区の受診率について。三木地区の状況をスタッフから聞いているが、三木地区ではまちづくり推進協議会の事務員ががん検診と合わせて特定健診の受診を促すなど、地区として取り組んでいる。地域の方の協力により、受診率が高いのではないかと考えている。

北井会長：地区の個別事情であり、仕組みでないのが残念である。仕組みとしては、例えば、地区の学校の運動会について、最近は暑さへの配慮から午前のみとしている場合も多いようだが、この運動会の日、午後に健診をするようなことはしないのか。

事務局：魅力的な健診ということで、中心となる学校やいろいろな方のご意見を伺い、検討したい。

特定保健指導について。人数では毎年300人前後、率にすると健診を受けた方の中で10%程度である。服薬をしていなくて、腹囲や生活習慣の引っ掛かりのある方、いわゆるメタボやメタボ予備軍の方が該当する。

北井会長：健康なはずだと思っていて、健診を受けて、おなか周りで引っかかる、という方が結構いるのだと思うが、特定保健指導の対象となる10%の方に予め生活指導をしたり、投薬が必要なら投薬していると、20年後、病気になる率がぐっと下がる。これを見せていくのが重要な役割であると思う。

光谷委員：歯周病検診時のう歯チェックについて。見える範囲で口腔内の詰め物や、入れ歯についても記録、チェックし、何かあればご案内しているが、歯周病検診に関してはレントゲンは撮らないため、歯と歯の間や歯の内部など、見えないところに関してのチェックはできない。そのため、歯科検診事業については、あくまでも歯科に行くまでの入り口としての検診として扱っていただきたい。患者さんの中には、検

診がきっかけの方もいるため、良い取り組みであると思っている。何事もなくとも年に1回は歯科を受診してもらう習慣があるとよい。

後出委員：健康のための運動面からお願いしたいことがある。

ラジオ体操ステーションについて。増加し、山代地区でも5か所になったが、話を聞くと、活動がマンネリ化し、人数が増えないとか、逆に減っているようなケースがあるようである。うまくいっている事例があれば情報共有してほしい。

ヘルスケアアプリについて。評判がよく、取り組む人が増えているが、相対的にはなかなか抽選に当選しなくなっている。抽選率の拡大についてもぜひ検討してほしい。

ウォーキングについては、ノルディック等、定期的に開催しており、良いと思うが、いろんな機会を通じて広めてほしい。

運動習慣を自分の生活の中に位置づけるような取り組みを市民ができるようになるといいと思うので、検討してほしい。

北井会長：ヘルスケアアプリの抽選率はどのくらいか。

事務局：20%程度、約5人に1人である。ありがたいことに加賀市の登録者数は、同様のアプリを導入している他の自治体より多い状況である。

当選品については、市内の商店連盟等が独自に発行する商品券の取り扱いも増えたが、地域のお店を応援したいというアンケート結果もいただいているので、抽選率も考慮しながら考えていきたい。

後出委員：アプリについては、地域ごとに歩数を競うようなものがあったと思う。自分も負けまいとして一生懸命に歩いた記憶があるが、このようなものを取り入れてもらえると思う。

山村委員：抽選に参加できるポイント数について。現在は1,000ポイントで抽選に参加できる。だいたい15日か20日頃に1,000ポイント貯まるが、そうすると、それで取り組みをやめてしまう方がいる。そこで、何かその先、1,200ポイントや1,500ポイントになったら何かもう一つ特典があるようにしてもらえると1か月を通しての運動につながるのではないかなと思う。

北井会長：2,000ポイントになったら抽選率が2倍になるような取り組みも良いかもしれない。

健診未受診者への取り組みについて。電話勧奨しているとの報告があったが、保健師などの職員が行っているのか。

事務局：国民健康保険団体連合会に委託している。勧奨対象者は約1,000人である。

北井会長：がん検診で精密検査の未受診者対策はどうしているか。

事務局：がん検診の精密検査未受診者については、保健師や看護師による訪問を延べ 200 人ほどに対して行っている。委託機関による勧奨も 200 人ほどに対して行っている。

橋本委員：数は多くはないが、勧奨を受けて受診される方もいる。

北井会長：素晴らしい取り組みである。もっと広報していくとよいと思う。

②予防接種事業について 資料 2 参照

質疑応答

北井会長：ワクチンの接種は子ども対象のことが多い。母子手帳にいつまでに何のワクチンを受けるというようなことが記載され、受けたものと受けていないものがあるようになってきていると思うが、接種率は 100%ではないのか。

事務局：母子手帳に記載があり、ワクチン接種に関するご案内もしているが、なかなか接種されない方がおられるというのが実情である。

北井会長：最近、麻疹が諸外国から持ち込まれて大変なことになっている。ある一定の年代でワクチンが議論された時期があり、ワクチン接種を受けていない若者がいる。その人たちが都会でコンサートに行ったり、海外旅行に行ったりして感染している。麻疹は感染力が強く、死に至ることもあるため、対策が重要である。幸い、今のところ加賀市での感染者はいないが、これだけ海外から入ってくると今後、不安になるような数字が出てくるかもしれない。

HPVワクチンは、子宮頸がんを 100%予防できるという数字が出ていたが、これについて、女性の方の意識を聞きたい。

下荒委員：30 歳近くになる自分の子の状況について。中学生の時にこのワクチンが出始めた。受けるか受けないかは任意だったが、自分の子は受けた。その後、後遺症問題など、様々なうわさがあったが、このワクチンで 100%予防できるのであれば、安心して受けられる環境が整ったのかと思うので、進めていただければ良いと思っている。

事務局：13 歳から接種対象となるため、小学校 6 年生の 3 月末に接種券を送付している。強制接種ではないので、医療機関で予約し、接種していただくこととしている。

北井会長：13 歳だとなかなか性教育もできておらず、話をするのも難しいと思うが、これは絶対必要。ぜひとも委員の皆さんは帰ったら近所の方に勧めていただきたい。重要なワクチンなので。妊娠がわかって、産婦人科にかかったときに、子宮がんもわ

かるとか、子どもが生まれたのに母親が死ぬというのは悲惨である。私も、看護学校で教える際は、学生には絶対に受けるように話している。

橋本委員： 高用量のインフルエンザワクチンについて。費用設定や接種券の配布方法について、決まっているところを教えてください。

事務局： 高用量のインフルエンザワクチンについては、75 歳以上の方を対象に、標準量のワクチンと高用量のワクチンのどちらかを選択できるという形で厚生労働省からの案内が出ている。接種券についてはレイアウトの見直しはあるが、今まで通り接種回数 1 回とする形である。費用については、市から医療機関への委託料が 5,900 円、自己負担額は 2,500 円と想定している。

橋本委員： そうすると、現在の標準量ワクチンの 2 倍以上の自己負担が発生するということか。

事務局： その通り。高用量の自己負担額は 2,500 円、標準量は 1,200 円という形になる。

③感染症対策について 資料 3 参照

質疑応答

北井会長： この計画は、市がやること、県がやること、国がやることに分けて、予め役割分担したものと理解している。

計画に基づく予行練習のようなことはするのか。

事務局： 計画では対策訓練を行うことになっているが、市の実施体制である市連絡会議も工夫しながら今後検討していく。

その他

平田委員： 加賀市はよくやっていると思う。

辻委員： 特定保健指導の実施率が高い点で、よく頑張っているという印象を受けた。

下荒委員： 高齢者も働き続ける例があり、会社での集団健診を受けている方も多いのではないだろうか。

6 閉会